

## 尾池守 石巻専修大学長 年頭の抱負



## 創立30周年 記念事業展開

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

1989年4月1日に石巻市を中心とする石巻圏域の熱い要望と温かいご支援のもと学校法人専修大学が石巻専修大学を創立しました。

お陰様で2019年の4月1日には創立30周年を迎えます。これに伴い昨年の7月からさまざまな形で創立30周年記念事業を行っています。今年の9月16日の創立記念日には、創立30周年記念式典を開催いたします。

また10月12、13日に開催する「石巻祭」では、30年間で培ってきた実績と、40周年に向けた将来構想を学内外に広くアピールいたしたく存じます。

学生が夢の実現へ  
飛躍できる大学に

東日本大震災から8年、「心の復興」は端緒にいたばかりですが、この8年間で再構築してきた基盤をベースに、「復興」を「創成」へと変えていければと考えています。創立以来築いてきた地盤に基づいて、一歩ずつ前に進み、

## 石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ: <https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/>

石巻専修大学  
広報係

☎986-8580  
宮城県石巻市  
南境新水戸1番地  
☎0225-22-7717(直)

30<sup>th</sup>  
1989-2019  
ISHINOMAKI SENSU University

一人でも多くの学生に多様な学びの場を提供していく所存です。

石巻専修大学は小規模ながら、理工・経営・人間学部という学問領域の異なる3学部を備えた総合大学です。

体系だった学問分野を学ぶとともに、専門を超えた社会知性を身につけるために、他学部・学科の授業科目を学ぶ学科間ジョイント・プログラムも今年から本格運用されます。

また、経営学部の学生が専修大学経営学部で半年間学ぶ国内留学制度など、多様な学びの道も定着しつつあります。

さらに、実社会で問われるコミュニケーション力や組織運営能力といった人間力を育成するため、自発的な研究活動やサークル活動などのサポートにも全力で取り組んでいます。

石巻専修大学は「多様な学びの力」で、学生一人一人が夢の実現に向けて飛躍できる大学を目指しています。

地域課題の解決に  
全学挙げ取り組み

16年度から私立大学研究プランディング事業として、「震災の復興から地域資源の新結合による産業創出へ―草葉起源による内水面養殖事業の創出―」を進めています。今後とも地域活性化の中核的拠点を目指して、地域課題の解決に向けた取り組みを、全学を挙げて推進していく所存です。

今年も皆様方のご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 初の英語教員誕生

人間学部人間文化学科では、中学校・高校の英語教員を養成する教職課程の英語教育コースを設けている。2013年に学部を開設以来、初めて高校の英語教員が誕生した。内定を得た4年次生2人に教員を目指したきっかけや試験対策、今後の目標などを語ってもらった。



## 個別指導受け苦手克服

石澤雅法さん(福島県日本大学東北高)

母校の教壇に立ちたいという憧れを持っていました。英語はあまり得意ではなかったのですが、3年次の夏にシアトルバシフィック大学での3週間の語学研修へ参加したことで苦手意識がなくなりました。渡米前に受けた長谷川香子教授や大縄

道子教授のマンツーマン指導のおかげで、驚くほど語学力が向上し、研修中は日常会話に困ることはなく、英語でコミュニケーションを取ることができました。

この研修は、大学生活の中で最も自分の成長を実感することができた貴重な体験でした。課外活動にも力を入れ、部活動では硬式野球を育てたいと思います。

部に所属。学生コーチを務め、人間性や社会性を養うことができたと感じています。

内定先は母校の日本大学東北高。母校の教壇に立つという目標を実現させることができました。英語が話せない状態だった自分の経験を伝え、できることに挑戦してきて育てたいと思います。



## 教育実習で「決意」確認

菊田美桜さん(宮城県仙台育英学園高)

小さい頃に英会話スクールの通っていたこともあり、英語は好きな科目でした。2年次の時、英語担当の先生方に勧められ英語教員を目指すことに決意。教職課程の受講を始めた。先生方の手厚いサポートのおかげで、研究と教員を目指す

学びを両立。教育実習は大変でしたが、生徒から学ぶことは多く、教壇に立ちたいという気持ちになりました。

面接試験は教員採用試験でも大きなポイントでした。進路支援係主催の就職活動総合セミナーで対策した結果、自信を持って受けることができました。

中学2年生で東日本大震災を経験し、当時の体験を伝えていかなければならないと考えています。卒業研究のテーマは防災教育。研究したことや感じたことを生徒にどんな形で伝えていくか。

内定先である母校の仙台育英学園高で震災を風化させない取り組みを行っていかねばと考えています。

営  
益満ゼミ

## 登米市をサポート

## 商品開発や魅力発信



ポスターを手に登米市の魅力をPRするゼミ生  
=12月、日本一はっとフェスティバルで

経営学部の益満環ゼミが「登米市シティプロモーションサポーター」に認定され、7月から活動に取り組んでいる。2年次生が市のロゴマークを使用した商品開発や、FacebookなどのSNS、ネット、バインダーなどを活用し、宮城県登米市の魅力を発信している。

ゼミ生たちはこれまでTシャツ、長袖シャツ、トートバッグ、エプロン、コースター、マグネット、バインダーなどに10点の商品を開発。登米市産業フェスティバル(9月)、郷土料理「はっと」を味わう「日本一はっとフェスティバル」(12月)で販売した。どの商品も好評で、すべてのイベントで完売した。

平山詩英さん(宮城県石巻好文館高)は「色やデザインなど6人で意見を合せてグッズを製作した。不安だったが、どの商品も好評でよかった。自分たちのアイデアを形にいくことに魅力を感じている」と話した。

千田翔夢さん(岩手県北上翔南高)は「貴重な経験ができ、自分の成長を実感している」と手応えをつかんだ様子。

活動の一環として菊地航弥さん(宮城県田尻高)

研究室  
探訪  
-⑤-

## 生涯にわたる「問い」を見つけよう

人間学部人間文化学科

杉浦ちなみ 助教

2018年に教員になったばかり。さまざまな体験を学びに変えようとする学生の姿勢に、教えられることが多い。

社会教育や生涯教育について、地域文化との関わりから研究している。鹿角島県奄美市、岐阜県郡上市などを訪ね、地域の文化を伝えることが多く。

ゼミでは宮城県内でフィールドワークを実施。栗原市では「くりこま山車まつり」を見学し、地域文化を伝承・創造する熱気を体感した。東松島市では震災復興伝承館などで震災復興をどう捉え、伝えていくかを学んだ。

石巻専修大学は、自身の地元就職して地域を盛り上げたいと考える学生が多い。文献を読むだけでなく、現地に赴いて地域の方々と交流し、理論と実践の両方の視点を培ってほしい。大学で幅広い領域の学問分野に接し、いろいろな活動に携わり、生涯にわたって考え続ける「問い」を見つけよう。



東松島市震災復興伝承館でゼミ生と展示を見学する杉浦助教(右)

## 投球練習場が完成

キャンパス内にある硬式野球部の室内練習場に隣接した投球練習場が竣工し、12月11日、完成披露会が開かれた。

尾池守学長、指方研二学生部長、三森敏正硬式野球部長らが出席し、部員たちに激励の言葉を贈った。施工を担当した株式会社ミネケン(宮城県仙台市)からは今後の活躍を期待し、人工芝と試合用の硬式ボールが贈られた。

主将の安部建人さん(経営3・新潟県北越高)は「施設を有効に活用します」と感謝の気持ちを述べた後、大学創立30周年の節目となる新シーズンに向け、「南東北大学野球春季リーグ戦で優勝し、全日本大学野球選手権大会に出場できるように、チーム一丸となって練習に励んでいきたい」と意気込みを語った。